

# 令和7年度 浜松市立犬居小学校 学校評価報告書

## < 1 自己評価 >

### 「ゆめに向かって がんばる子」

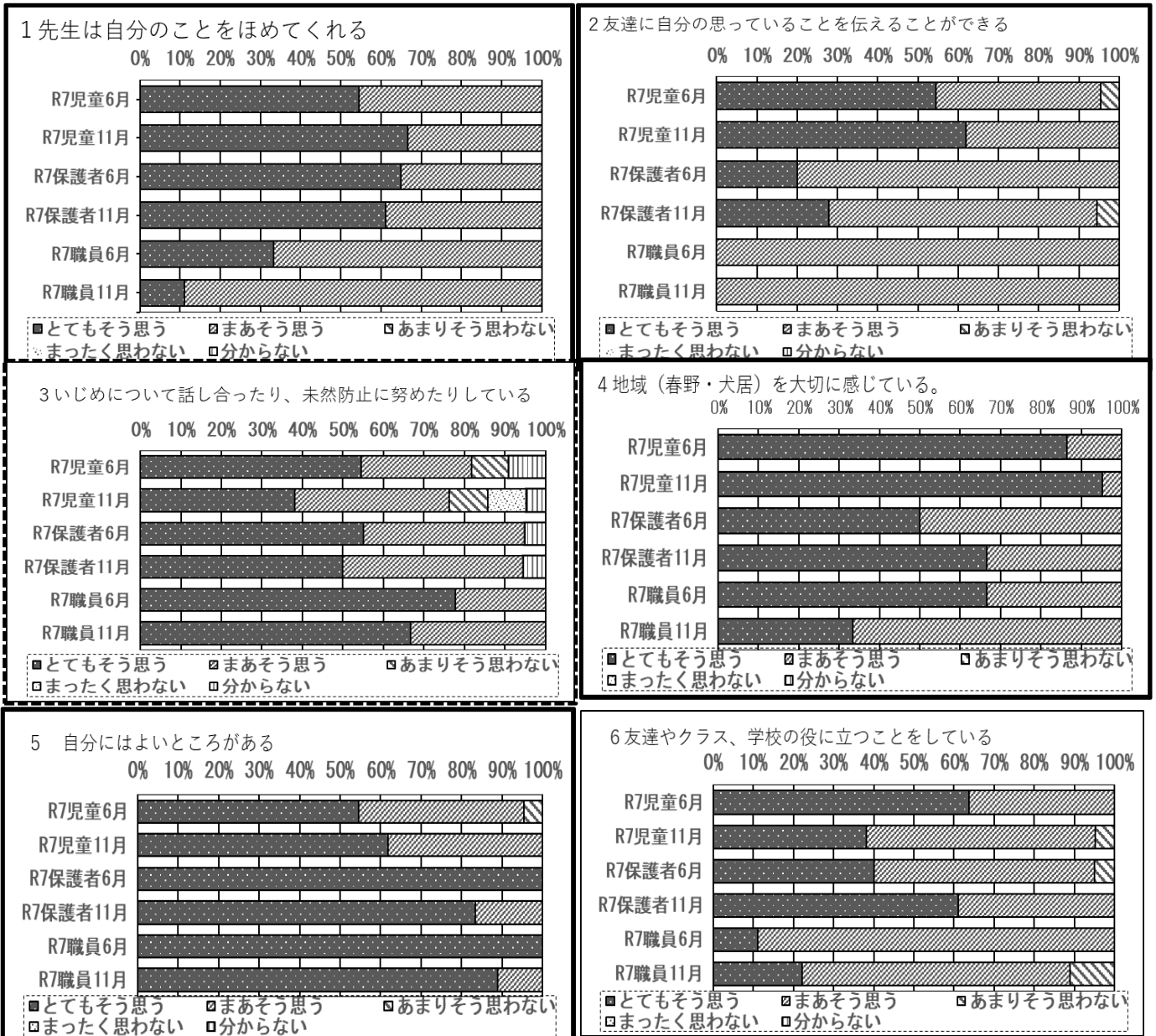
この学校教育目標の達成をめざし、今年度も教育活動を進めてまいりました。活動を振り返り、次年度の教育活動に生かすために、学校がめざす子供の姿に沿って質問を作成し、児童・保護者・教員に対してアンケート調査を行いました。アンケート結果から分かった、本年度の犬居小の児童の様子と次年度に向けた考察をお伝えします。今回のアンケートの結果で、「とてもそう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が、児童・保護者・職員三者とも**全て9割以上のものを太線枠で、8割未満があるものを破線枠で示してあります。**

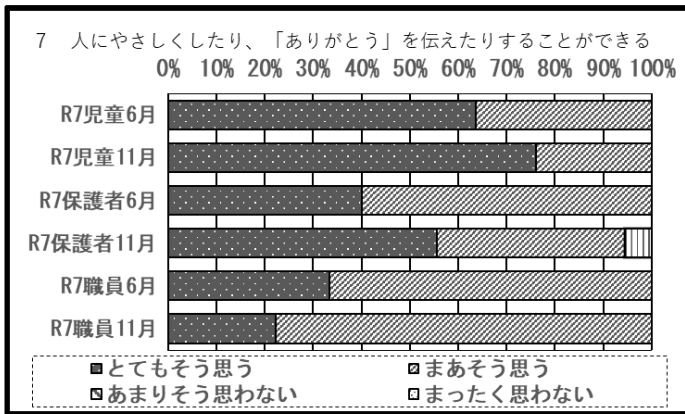
### 「やさしい子」



<夢と希望をもって生活し、自他の良さに気付き、相手の立場になって考えた言動ができること>

### ★★★★★ 「やさしい子」 アンケート結果 ★★★★★





【アンケートより】

⑩ 「1. 先生は自分のことをほめてくれる」「2. 友達に自分の思っていることを伝えることができる」「4. 地域（春野・犬居）を大切に感じている。」「5. 自分にはよいところがある」「7. 人にやさしくしたり「ありがとう」を伝えたりすることができる」の5項目については、肯定的な回答が9割を超えました。昨年度と比べ、改善できたことがたくさんありました。特に、設問1.2.4.5.7については児童の肯定的な回答が100%となっています。

⑪一方で、「3. いじめについて話し合ったり未然防止に努めたりしている」については、前期よりも低下しました。また「6. 友達やクラス、学校の役に立つことをしている」は前期には⑩にあった項目ですが、割合が低下しています。

【考察】

⑩今年度本校では「思いを伝え合うこと」「自己肯定感・有用感を高めること」に力を入れ、取り組んでまいりました。従来通りどの職員も「全職員が全児童の担任」という意識をもって、日頃から児童を誉めたり頑張りを認めたりする声掛けを行っておりますが、昨年度より児童数が減ったこともあり、児童一人一人に対し職員の日や声掛けがたくさん届いているように感じています。児童が委員会主体で行っている「よい子見つけ」も昨年度より取り組みに力が入っていました。友達から自分の良さを認めてもらえる回数が増え、嬉しそうな表情を浮かべる子を目にする機会が増えました。

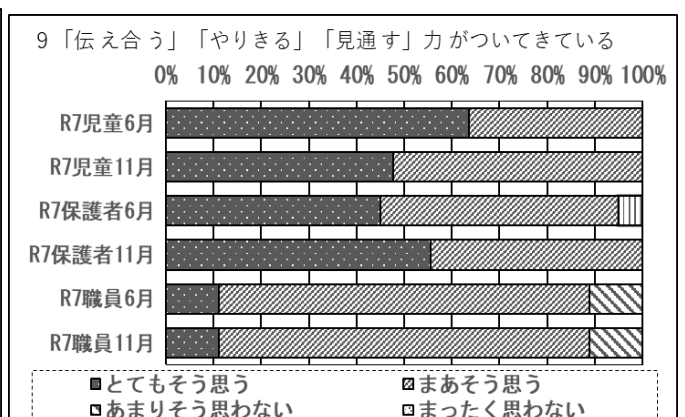
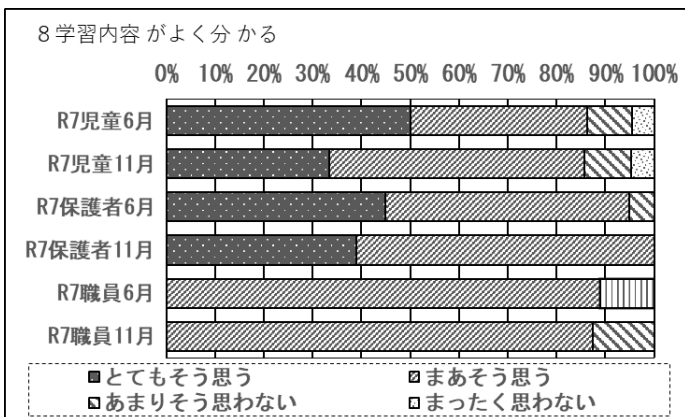
⑪「いじめの未然防止」についても今年度重点的に取り組んでまいりました。実際にいじめが起きて、それに対してみんなで話し合わなければならなかったケースは幸いにしてありませんでした。毎月初めに生活目標について全校児童で話し合う時間を設けており、その際いじめにつながる言葉遣いや友達への態度について考える活動を行っています。しかし、いじめ問題について直接的に話し合っている形はとっていませんので、児童の中には、いじめ防止のために行っていると意識していない子がいるものと思われます。これまで以上に児童に分かりやすい活動になるよう改善してまいります。

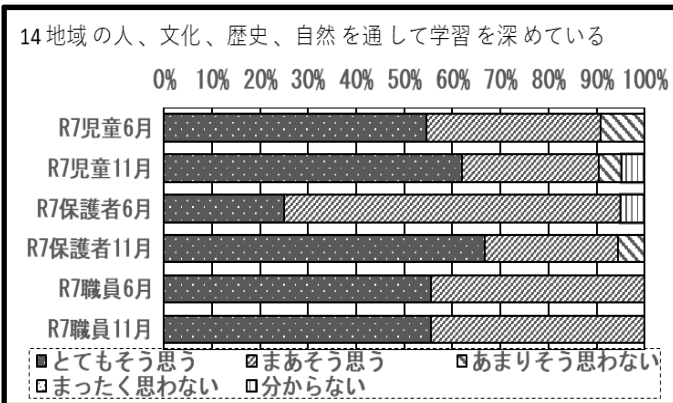
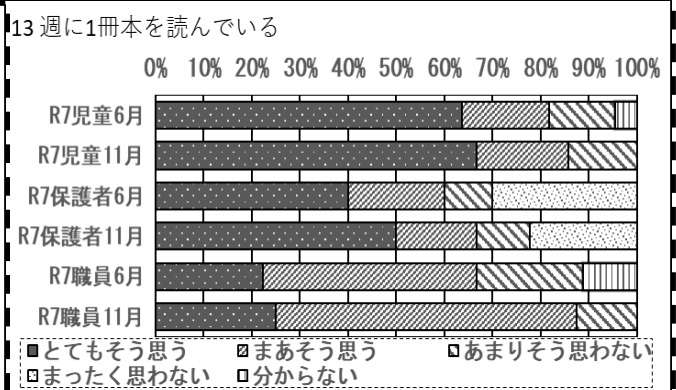
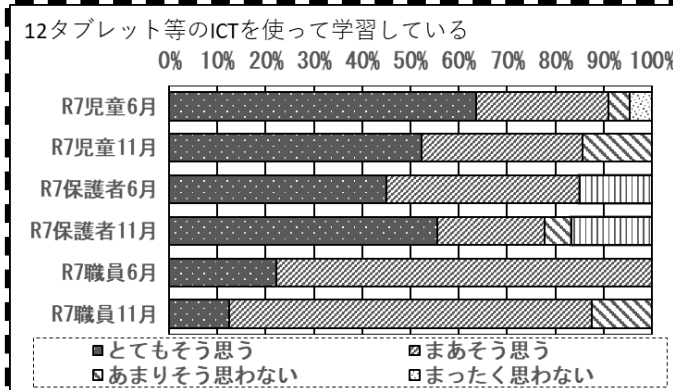
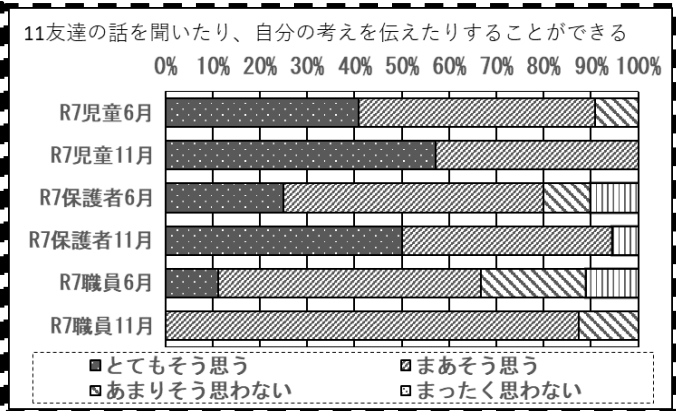
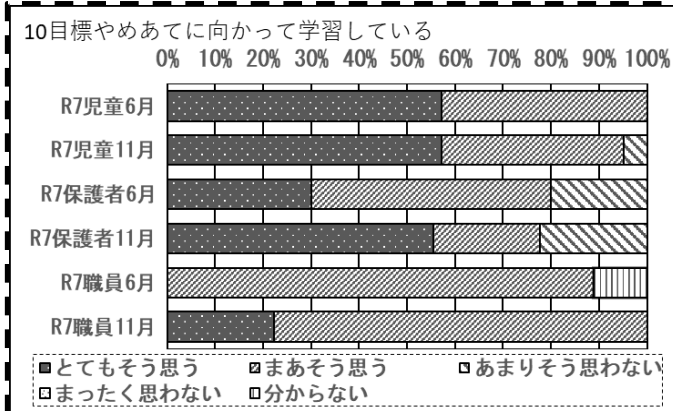
「かしこい子」



＜自分の課題に気づき、主体的・協働的に学び、学んだことを様々な場面で生かしていくことができることも＞

★★★★★「かしこい子」アンケート結果 ★★★★★





【アンケートより】

㊦ 「14. 地域を通して学習を深めている」の肯定的な回答が9割を超えています。また、「11. 友達の話の聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる」は、9割を超えていませんが大幅な改善が見られました。

㊦ 「10. 目標やめあてに向かって学習している」「12. タブレット等のICTを使って学習している」「13. 週に1冊本を読んでいる」が8割を下回っています。

【考察】

㊦ 総合的な学習の時間や生活科、様々な体験活動の中で、地域の方に教えていただいたり、サポートしていただいたりしながら「春野・犬居を題材にした学び」を行ってまいりました。また、教科書の内容をそのまま教えるのではなく、児童がよく知っていて、手持ちの情報が多い地域素材を活用して授業づくりを行うことで、主体的に学習を進めることが容易になり、大人の手を借りずとも子供たち同士で話し合いながら、協働的に学習することができています。そのことが「11. 友達の話の聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる」の大幅な改善にもつながっているのではないかと考えられます。今後も様々な教科の学習や活動と、児童の生活の実態や地域の題材を結び付けて分かりやすくすることで、学習効果を上げることができるよう工夫してまいります。

㊦ 設問 8. 10 の結果をつなげて考えると、学習内容の理解に困難を感じながら、目的がはっきりしないまま授業に参加している児童が前期に引き続き一定数いることが分かります。授業に参加した子供たちが「わかった!」「できた!」「たのしい!」と感じられるように、我々教師がもっと努力や工夫を重ねていかなければならないと考えています。一人一人の児童が、それぞれ自分に合っためあてや課題を見出したり選択したりして、それらを解決していけるよう、職員一丸となって努力してまいります。

読書については、前期と比べて少し改善が見られました。しかし他の設問と比べても大きく落ち込んだままの状態です。学校では週2回朝読書の時間を設けたり、読書推進のための様々な活動を行ったりしていますが、なかなか効果は上がっておりません。文章から情報を読み取る力は、新しい知識・技能を得たり、よりよく思考・判断・表現する力を高めたりして、豊かに生きるための力を育む基礎になります。家庭とも歩調をそろえた取り組みが必要なのではないかと考えられます。

# 「たくましい子」

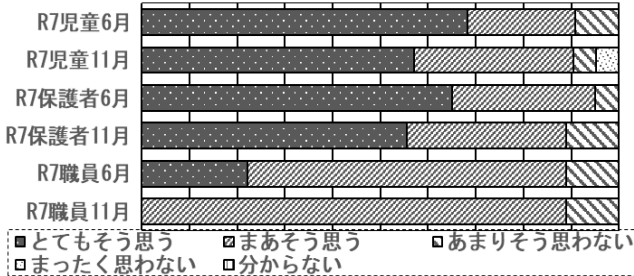


<自分の健康や体力、安全について理解すると共に、めあてをもって努力し、最後まであきらめずにやり抜くことも>

## ★★★★★「たくましい子」アンケート結果 ★★★★★

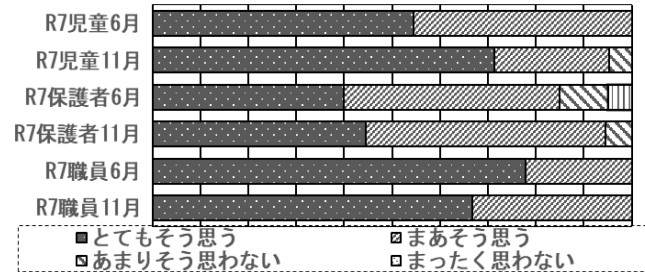
15 早寝、早起き、朝ご飯を行っている

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



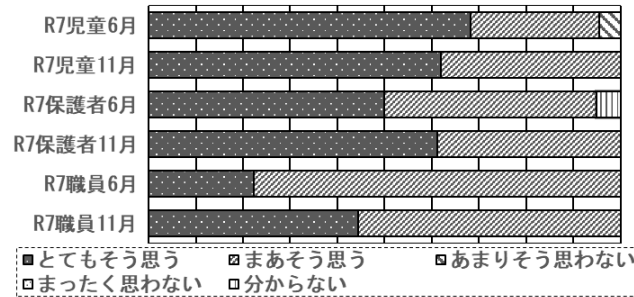
16 目標 やめあてに向かって運動をしている

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



17 決まりを守り、安全に生活している

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



### 【アンケートより】

① 「16. 目標に向かって運動している。」 「17. 決まりを守り、安全に生活している」については、肯定的な回答が9割を超えました。特に設問17につきましては後期は100%となっています。

② 「15. 早寝・早起き・朝ご飯を行っている」に対する回答が前期に引き続き9割を下回りました。

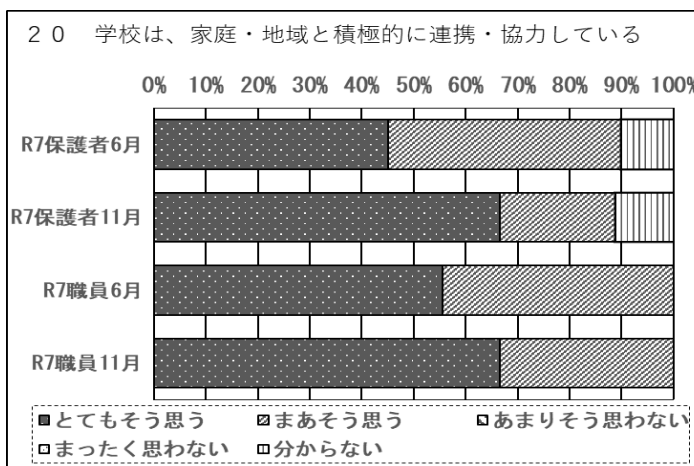
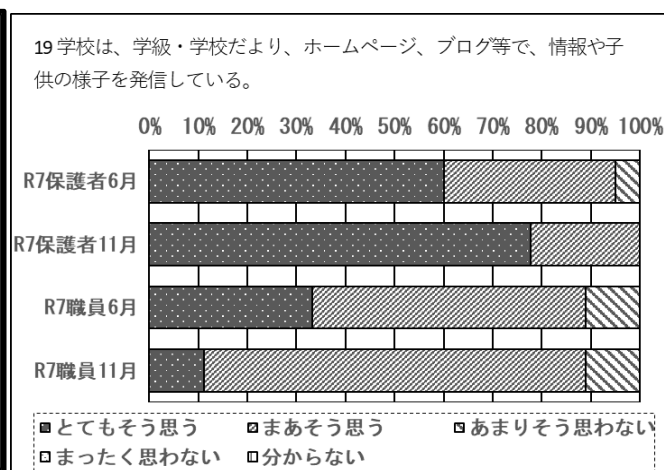
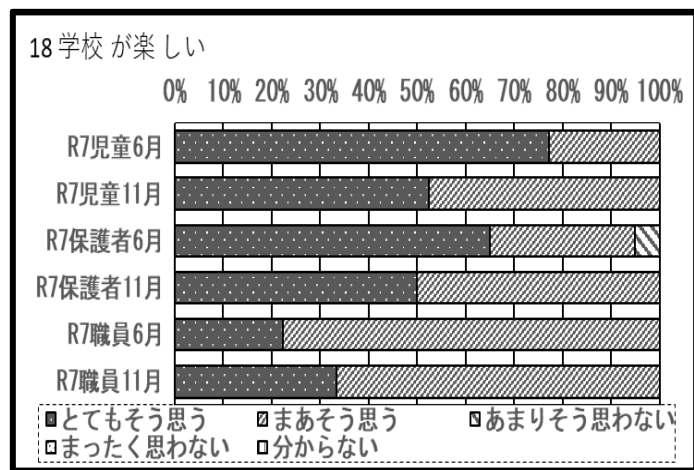
### 【考察】

① 昨年度に引き続き、マラソンカードや縄跳びカードを使い、それぞれに目標を定めて努力を重ねることができています。運動経験が益々少なくなっていく中で、日常の運動習慣はとても大切です。特に山間地の子供たちはバス通学や親の送り迎えが多かったり、放課後友達と遊ぶことが難しかったりすることから運動不足になりやすいともいえます。本校では朝運動の時間や長い昼休みの時間を確保して、外で体を動かすことを奨励しています。

② 「12. 早寝・早起き・朝ご飯を行っている」については、夜遅い時間までゲームをしていたり、ゲームをするために朝必要以上に早い時間に起きたりしているために、否定的な回答となっている傾向が見られます。そのような子は睡眠不足で体調不良を訴えたり、午後の授業になると、眠くて授業に集中できなくなってしまったりすることが多いようです。今一度、ゲームや動画の視聴時間の見直しや、中高生の兄弟の生活時間との区別をつけることなど、御家庭で確認し合ってください。学校からも保健便りやおはようカード等で子供たちに呼びかけや意識付けを行ってまいります。

## ◆その他

## ★★★★★ 「その他」 アンケート結果 ★★★★★



### 【アンケートから】

㊦ 「18. 学校が楽しい。」の肯定的な回答が、後期は100%でした。

㊦ 設問19の情報の発信、設問20の学校と家庭・地域の連携につきましては、昨年度よりもやや低下が見られました。

### 【考察】

㊦ 昨年度に引き続き、「18. 学校が楽しい」への児童の肯定的な回答が100%に達していることをうれしく思います。学校と家庭・地域の連携や、情報発信についても肯定的な回答が比較的多いことから考えると、学

校、家庭、地域が情報を共有しながら連携して子供たちの頑張りを支えることができているからこそ、子供たちが日々の学校生活に満足できていると言えます。今後も更に連携を深め、子供たちの自己実現を支えてまいります。



## 総括

今年度は、肯定的な意見が9割以上のものが大きく増えました。特に、昨年度課題として挙げられていた、「思いを伝え合う」と「自己肯定感や自己有用感を高める」ことについては、ある程度成果があったといえると思います。

一方で、学習面で満足できていない回答が多かったこと、いじめ未然防止への取り組みが意識できていない児童がいること、読書の習慣化などでまだまだ努力が必要なことなど、前期から重点的に取り組んできたが、目立った成果が出ていない課題があることもよく分かりました。今回の振り返りを踏まえ、職員で再度相談をし、改善に向けて努力してまいります。

末筆になりますが、多岐に渡る学校アンケートへの御協力、ありがとうございました。

### 〔保護者自由記述〕

※改善案として御意見いただいたものについては、来年度に向けての検討材料としています。2月のPTA理事会等で、話し合いの経過等お伝えしていきます。

・いつもお世話になります。朝7時に出て16時過ぎに帰宅し、その上、宿題が待っている毎日、というのは、それなりに負担のようで、時々「もう、学校は嫌だ」と言ったりしています。大人でも、10時間近く、外出をしていれば、疲れますものね。帰宅後、ランドセルを投げ出して、兄と外へ遊びに行ったり、本に夢中になったりしているのを見ると、こちらも「ま

ず、宿題をやりなさい」とは言いたくなくなっちゃいます。また、少し前には「友達が少ない」と言いながら、涙を流すこともありました。子どもは、子ども同士で刺激を受け合うことが、もっとも望ましいだろうと思うのですが、やはり、少なくなりすぎてしまいました。親としても、どうすることもしてあげられないので、辛いですね。

・生徒一人一人丁寧に指導していただきありがとうございます。安心して通わせる学校だと思えます。

・みんなの前で発表する力を学校で学び身につけていることやネットだけでなく本を読む機会を与えてくださることがとてもありがたいです。

・いつも生徒一人一人丁寧に指導いただきありがとうございます。

・運動会が10月となり、9月よりも子供たちの体調は良かったと思うが、残念ながら2日延期になってしまった。来年は1年生の入学がない予定なので、5月の運動会がいいのではないかと考えました。

・グラウンドの草も草枯らしの使用でよいと思いますが、タイヤとネットを引っ張る道具を使っているみたいなので、もう少し様子を見てみたいです。ダニ(シカによる)がつくのは草だと思うので、運動会のように裸足で何かするときは草がないほうが良いと思います。

・1年生が一人になってしまうので、いろいろと考えることがあります。複式なので来年は一人になってしまうのかと思うとかわいそうな気がします。

・PTA 学年代表となっていますが、これからもっと少なくなるので運営の方法を考える必要があると思います。

・自習の授業の時にも、大人の目がしっかり届くような方法で自習できるようにしてほしい。

#### 〔職員自由記述〕

・行事やイベントが目白押しで子供たちのホッとする時間が息をつく暇がない感じを受ける。いろいろ経験したり、体験することはいいが、しっかり目的を持って、一つ一つに丁寧に子供達が主体的に取り組める様にしていきたい。

・行事や活動が多いと感じる。日々の授業を大切にしていきたい。

・金曜日課のように早く児童が帰る曜日があるとよい。

## < 2 学校関係者評価 >

2月2日（月）に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・子供たちが落ち着いている。1年間での成長を感じる。特に低学年の成長が顕著だった。
- ・タブレットを低学年から積極的に使っていて驚いた。高学年では、タブレットを活用してスライドにまとめられていてすごいと思った。
- ・先生がじっくりと子供たちと向き合って、少人数で丁寧な学習だった。
- ・学校評価アンケートで課題に出された読書活動について、自分も読み聞かせボランティアを行っているので、読書がもっと好きになるように考えたいと思う。読解力は社会でも求められていて子供たちの今後の人生の中で必要な力だ。子供たちが活字に親しむためにも、好きな作品に出会えるように紹介していきたい。
- ・読書推進活動については、PTAと学校が協力して進められるといい。
- ・みんなあいさつをしてくれたところがすばらしいと感じた。
- ・和気あいあいとした雰囲気があった。小規模校のよさを生かしてほしい。人数が少ないので、一人一人が発表しないと進まない。発言する力がついている。
- ・学校評価アンケートからも、児童数の減少や児童一人の学年について心配する保護者の声が聞かれる。いじめ防止、人間関係作りの点においても学級編成の組み方は重要。

## < 3 学校関係者評価を受けて >

学校関係者評価を基に、以下の点について家庭との連携を強め、改善を図る。

- ・早寝、早起き、朝ごはんの励行、アウトメディアの時間を作る。

本校の子供たちは、数年前まで「早寝、早起き、朝ごはん」はほぼ100%できていた。この二・三年、時間がなくて朝食を食べずに登校したり、夜遅くまでや朝早くからゲームをしていて睡眠時間が足りずに体調を崩したり授業中に寝てしまったりする子供が出てきた。家庭内の時間の使い方なので、強請することはできないが、学校での様子を伝えたり、生活時間を見直す活動を保護者の協力の下で行ったりすることで、改善を図っていきたい。

- ・読書推進活動を学校と家庭と協力して進めていく。

今まで読書推進活動は学校が行ってきた。学校では読書の時間や必読書が設定され、本の面白さに触れる活動が頻繁に行っている。しかし家庭では読書をあまりせず、ゲームや動画視聴に時間が割かれてしまっており、学校だけでは読書の習慣付けは限界が見えている。保護者も子供が家庭で読書しない傾向にあることを認識しており、家庭と連携して読書の習慣をつけていく必要がある。

- ・今後も引き続きいじめ防止等のための基本方針に沿って未然防止・早期発見に努める。

子供たちが思いを伝え合える人間関係づくりを行う。また、思いを伝えるためのスキルや良好な友達関係を構築するためのスキルなどの周辺事項から指導していく。学級編成についても、人間関係づくりの視点からも工夫した編成を行う。